

豊かな表現力の育成
～伝え合う力を高める指導の研究～

I 研究テーマについて

伝え合う力を高める指導の研究について、ここ数年取り組んできている。昨年度までの研究の成果と課題を受けて、今年度も伝え合う力に重点を置き、読むこと・書くことの領域の中での指導の工夫を取り上げた。また、子ども達の考えを深め表現力をはぐくむための音声言語と文字言語が有機的に関わるような学習形態・指導法・教材の開発にも取り組んでいきたいと考え、このテーマを設定した。

II 研究の内容

1 「単元を貫く言語活動」を設定した授業づくり

～伝え合う力を高める指導～

講師 南アルプス市立櫛形中学校教頭 保坂 伸 先生

①言語活動充実のための具体的工夫について

- ・「単元を貫く言語活動」とは
- ・言語活動設定の際の留意点

②演習

- ・第1学年上「ゆうだち」を教材にした単元の構想

③質疑

2 授業研究

単元名 「おはなしをたのしもう」 教材 「ゆうだち」

塩山南小学校 1年生担任 村田 奈緒美 教諭

単元の目標

読むこと：◎登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むことができる。

○文章の内容と自分の経験を結びつけ、自分の思いや考えを発表することができる。

①単元を貫く言語活動…「おはなしはっぴょうかいをしよう」

お話発表会を設定することで、意欲を持たせ活動することができた。

②挿絵の活用…ふり返りがしやすかった。

③役割演技…想像を広げながら、興味を持って取り組むことができた。

3 実践交流

- ・「伝え合う力を高める指導の工夫」について、一実践を持ち寄り、授業の様子を交流した。
- ・各自が実践を持ち寄り、質疑応答の時間をとることで互いの問題意識を共有することができた。

4 小中授業交流

単元名 「みたことかんじたこと」

日下部小学校 2年生担任 佐藤 清美 教諭

単元の目標

- ◎様子を表す言葉の使い方に注意して、教科書にある例を参考にして詩を書くことができる。
- ともだちの作品を読み合い、良いところや感想を伝えることができる。
- ・指導案検討及び授業研究会を小中合同で行うことにより、国語科における小中連携について課題意識が高まった。
- ・小学校・中学校で「詩」を書くことは技法を教える訓練の場と考えることができる。学年が上がるにつれて学習を積み重ね、よいものができればよい。
- ・子どもたちに言葉の大切さを教えていく教師自身が、言葉を大切にしていきたい。

Ⅲ 成果と課題

- 学習会で学んだことを、授業研究や日常の授業で生かすことができた。
- 実践授業を通して、想像を広げながら読んだことを伝え合うにはどのような授業展開や方法があるのか、共に考え学ぶことができた。
- 実践発表は題材や教材のとらえ方、授業の進め方を考える上で大変参考になり実際の指導に役立った。
- 前義務教育課指導主事の保坂教頭を招いて「単元を貫く言語活動」について実践例をもとにした学習会を持てたことは有意義だった。
- 「伝え合う力」に着目しすぎて、授業の目標や評価が曖昧になってしまうことがある。目標や評価を念頭に置き、実戦に臨むことの大切さが再確認できた。
- 実践をして「伝え合う力」が高まったかどうかを検証する方法があればよいと思う。授業前と授業後の変化といったものがわかると、PDCAサイクルで取り組みが進められると思う。

(部長 中村 悦子)